

New Encyclopedia of
Cthulu Mythological Materials

クトゥルー神話 解体新書

森瀬 繭・著

クトゥルー神話を知るための
マテリアル・ブック

137

項目

の邪神・怪物・禁書解説+年代記+年表

暗黒の神話大系、

クトゥルー神話の

マテリアル
背景要素を解体する!

第2巻 025

ラン=テゴス

Rhan-Tegoth

- ユゴス
- ロマル大陸
- 「ナコト断章」
- 「エイボンの書」



北極圏の神

「無限にして無敵なるもの」ラン=テゴスは、ユゴスの名で知られる冥王星の海底都市から地球の北極圏に飛来した水陸両棲の怪物である。「ナコト断章」の第八回頁によれば、その到来は人類の誕生以前、北方の大陸ロマルの隆起よりも以前のことらしい。アラスカのどこかに存在する石造都市の廃墟で、300万年にわたり象牙の王座で眠り続けていたラン=テゴスだが、20世紀初頭、「ナコト断章」の記述を手がかりにこの場所に降り着いた英人探検隊の手でロンドンに運ばれた。その後、その行方は不明である。ラン=テゴスの体長は10フィート（約3メートル）ほどで、ほぼ球形の胴体から面がくり抜けた手足が本伸びており、その先端は蟹の脚のような形をしている。楕だらけの球形の頭部には3つの目が三角形に並んでいて、左眼に動く長い鼻と眼に似た器官がある。特徴的なのは、体の全体を覆うように生えている、黒くて長い絹毛状の吸引管だ。ラン=テゴスはこの吸引管で、遠く分たつふりの血液を生物から吸い取るのである。肉食の皮膚は像に似せられたように厚く、無数の吸引管によって円形の穴が無数に穿たれる。伝説によれば、ラン=テゴスが死ぬと「古きものども」は反ってこれなくなるというのだが、この「古きものども」というのが何を指すかは不明である。

なお、「エイボンの書」によれば、ラン=テゴスは古代ロマルに棲息する獣に似たノフケーから派生された。また、時代が経ち、ロマルの地がユベリホレイオスと呼ばれた頃に引揚を集めたツアトグとは、激しい敵対関係にあったという。

蠟人形館に潜むもの

ラン=テゴスは、ラヴクラフトがヘイゼル・ヒールドのためにゴーストライティングした『蠟人形館の恐怖』に登場する邪神です。第一世代、第二世代の小説作品において、ラン=テゴスを振り下げた作品は少な、上記の概要についても殆どが大察可を名乗る頭のおかしい人物が話した内容なので、どこまで信用できるのかわかりません。

-70-

また、「古きものども」のくだりについても同作の記述ですが、項頭(p. xxx)で解説した通り、このワードは必ずしもクトゥルー神話の邪神たるもの総称ではありませんので、HPLがこの箇所を何をしてしているのか、今とってはわかりません。

自作品にラン=テゴスを登場させるなら、このあたりを好きに解釈していいでしょう。AWDとHPLの後援合作の1つである中編『境界に潜むもの』では、ラン=テゴスの名前がノフケーの異名として挙がっていますが、これは実のところ、「蠟人形館の恐怖」の舞台である蠟人形館内にノフケーの蠟人形らしきものが存在するという描写を、AWDが誤読したのだと考えられます。少なくとも、当該シーンのノフケーらしき物体の描写はラン=テゴスと似ても似つかないので、HPLが両者を同一視した可能性はありません。ともあれ、この記述を根拠に、ラン=テゴスはノフケーの神とされるようになります。リン・カーターとロバート・M・ブライスは企画した、「エイボンの書」の再現を目論む同名のアノロジーでは、収録作のカーター「モーロックの怪物」において、この設定が踏まされました。カーターはラン=テゴスを「実体のない人気の精霊」とした上で、ツアトグとの敵対関係を付け加えています。

なお、『クトゥルフ神話TRPG』の関連書ではしばしば、ラン=テゴスがロンドンの蠟人形館からカナダのオンタリオ美術館に引き取られ、アレーン・ジョン列島の先住民族であるアレーン族の遺物として展示されたという話が載っていますが、これはサブリメント『冥先に於て At Your Door』（未訳）に収録されているシナリオ『神々が語り始めるところ Where a god shall tread』の設定です。『クトゥルフ神話TRPG』と無関係の商業作品で使用する場合は、許諾なしは配慮が必要となるかもしれません。

蠶蛛の神ラン=テゴス

登場作品が少ないマイナー神であるラン=テゴスですが、聖本編『グイン・サーガ』シリーズの外伝第1巻『七人の魔道師』に登場したこともあって、日本では比較的取り上げられる機会が多い神性でした。同作の印象的な登場人物の1人である、ランダーギア出身の黒人魔道師〈黒き魔女〉タミヤが、〈黒スルールの古き神〉ラン=テゴス（作中表記は崇拝者だったのです。ただし、『七人の魔道師』のラン=テゴスは、蠶蛛の神と呼ばれています。あるいは、「蠟人形館の恐怖」において、蠶蛛を思わせる黒くとした存在として描写されているツアトグとの混同があったのかもしれない）

なお、『グイン・サーガ』シリーズは、クトゥルー神話をベースとした聖本編『境界水新伝』シリーズと何らかの繋がりを持っていて、他にも幾つかクトゥルー神話要素が存在します。外伝第14巻『夢魔の四つの子』には、クスルフという名の好々然とした怪物が出現し、主人公グインと言葉を交わしているのです。

-71-

クトゥルー神話の

第一人者 森瀬 繭 による

2020年代 最新の解説書!!

定価 2500 円 (本体 2,273 円 + 税) 株式会社 コアマガジン